

# 令和7年度 発達障害者相談支援研修 「相談支援知識力向上研修」 実施報告

第1回東京都発達障害者支援地域協議会  
令和7年11月19日(水)

社会福祉法人 正夢の会  
理事長 山本あおひ

## 研修概要

目的：区市町村の相談支援員やサービス提供事業者に対して、発達障害児（者）支援に必要な体系的・実践的な技術の習得に係る研修を実施することにより、区市町村における発達障害児（者）の支援体制整備を推進する。

対象：区市町村等の相談支援員、放課後等デイサービス、就労継続支援等の障害福祉サービス従事職員等

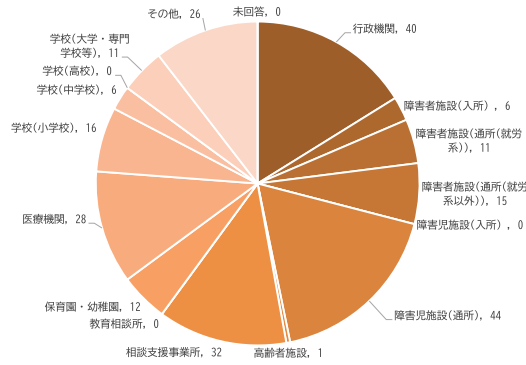
内容

	日程	応募/参加	研修内容	講師	所属
第1回	10月11日 (土)	140名中 100名 71.43%	① 発達障害の特性	市川 宏伸氏	日本発達障害ネットワーク 理事長 他
			② 自閉症の人の支援	新井 豊吉氏	東京家政大学 子ども学部 子ども支援学科 特任教授
第2回	10月25日 (土)	108名中 75名 69.44%	① 構造化	安倍 陽子氏	川崎医療福祉大学 非常勤講師 公認心理師・臨床心理士
			② ASDのコミュニケーション支援	諏訪 利明氏	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 准教授
第3回	11月8日 (土)	-	① 発達障害・自閉スペクトラム症の支援 ～行動障害とABAに基づいた支援～	井上 雅彦氏	鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学講座 教授
			② 発達障害の相談支援	中山 正行	正夢の会レスポーンいなぎ施設長 社会福祉士・公認心理師
			③ アセスメントツールの導入 ～現場の実践から～	森 裕幸氏	埼玉学園大学 人間学部 心理学科 専任講師・公認心理師
第4回	12月6日 (土)	-	① 「それぞれの専門性を高める」 ～作業療法士の視点から～	酒井 康年氏	うめだ・あけぼの学園 作業療法士・学部長
			② 「それぞれの専門性を高める」 ～言語聴覚士及び心理士の視点から～	志村 みさと	正夢の会中野区療育センターゆめなり副施設長・言語聴覚士
				結城 綾	正夢の会レスポーンいなぎ平尾主任・公認心理師
第5回	1月10日 (土)	-	① 大人の発達障害 ～就労に向けての評価と実際～	梅永 雄二氏	早稲田大学 教育学部 教育心理学専修 教授
			② 発達障害のある大学生 ～学生の自立と家族の支援～	五味 洋一氏	群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害学生支援室長 准教授
			③ 成人期ダイアケアにおける発達障害専門 プログラム	横井 英樹氏	昭和大学発達障害医療研究所、昭和大学付属鳥山病院 臨床心理士・公認心理師・訪問型職場適応援助者

## 参加者の概況(所属)

申込者数：248人 参加者数：175人 参加率：70.56%  
(令和7年度実績：全5回分の第2回までの実績)

### 【所属別】

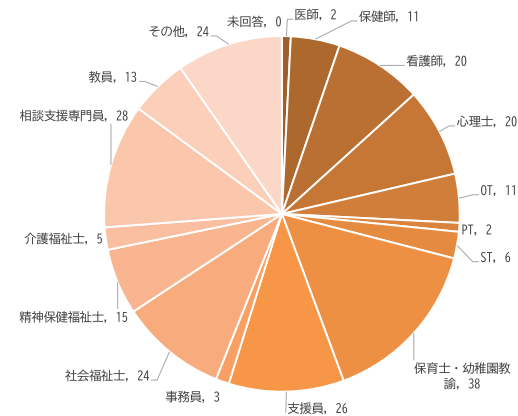


所属別	人数	割合
行政機関	40	16.13%
障害者施設(入所)	6	2.42%
障害者施設(通所(就労系))	11	4.44%
障害者施設(通所(就労系以外))	15	6.05%
障害児施設(入所)	0	0.00%
障害児施設(通所)	44	17.74%
高齢者施設	1	0.40%
相談支援事業所	32	12.90%
教育相談所	0	0.00%
保育園・幼稚園	12	4.84%
医療機関	28	11.29%
学校(小学校)	16	6.45%
学校(中学校)	6	2.42%
学校(高校)	0	0.00%
学校(大学・専門学校等)	11	4.44%
その他	26	10.48%
未回答	0	0.00%
合計	248	100.00%

## 参加者の概況(職種)

申込者数：248人 参加者数：175人 参加率：70.56%  
(令和7年度実績：全5回分の第2回までの実績)

### 【職種別】

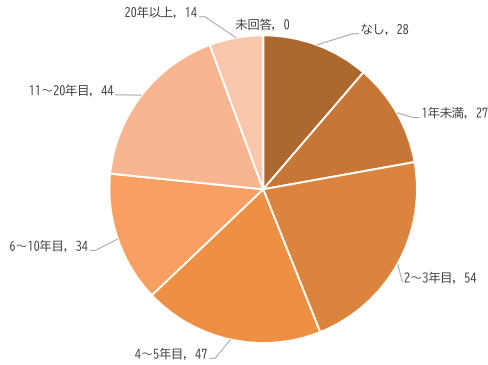


職種別	人数	割合
医師	2	0.81%
保健師	11	4.44%
看護師	20	8.06%
心理士	20	8.06%
OT	11	4.44%
PT	2	0.81%
ST	6	2.42%
保育士・幼稚園教諭	38	15.32%
支援員	26	10.48%
事務員	3	1.21%
社会福祉士	24	9.68%
精神保健福祉士	15	6.05%
介護福祉士	5	2.02%
相談支援専門員	28	11.29%
教員	13	5.24%
その他	24	9.68%
未回答	0	0.00%
合計	248	100.00%

## 参加者の概況(経験年数)

申込者数：248人 参加者数：175人 参加率：70.56%  
(令和7年度実績：全5回分の第2回までの実績)

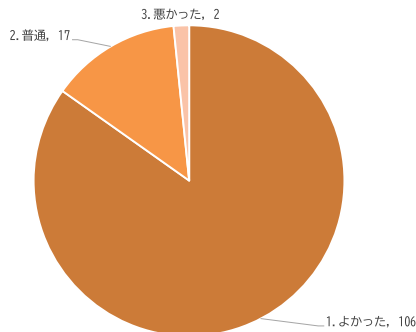
### 【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	28	11.29%
1年未満	27	10.89%
2~3年目	54	21.77%
4~5年目	47	18.95%
6~10年目	34	13.71%
11~20年目	44	17.74%
20年以上	14	5.65%
未回答	0	0.00%
合計	248	100.00%

## 参加者の概況(オンラインについて)

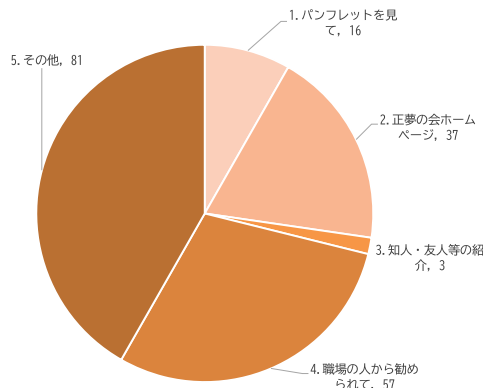
申込者数：248人 参加者数：175人 参加率：70.56%  
(令和7年度実績：全5回分の第2回までの実績)



評価	人数	割合
よかった	106	84.80%
普通	17	13.60%
悪かった	2	1.60%
合計	125	100.00%

## 参加者の概況(研修を知ったきっかけ)

申込者数：248人 参加者数：175人 参加率：70.56%  
(令和7年度実績：全5回分の第2回までの実績)



経路	人数	割合
パンフレットを見て	16	8.25%
正夢の会ホームページ	37	19.07%
知人・友人等の紹介	3	1.55%
職場の人から勧められて	57	29.38%
その他	81	41.75%
	194	100.00%

## アンケート結果

### ① 「発達障害の特性」 市川 宏伸 氏

- 発達障害を持つ当事者だけではなく、その家族の支援を行う事はとても大切であるとわかりました。今回の講義の中で、発達障害を持つ方の薬物治療について関心を持ちました。普段支援を行っている利用者様が使用している薬について詳しく知る事が出来ました。どのような効果があるのか、薬によって副作用が強いものなど、また薬によってその特性が異なる事がわかりました。利用者様の二次的症候(行動)には有効である事がわかりました。
- 上記の他、薬に関するコメントが多くあり、普段情報が少なくいい機会となったようです。
  - ・医療的視点から薬物治療の取り入れ方とそれぞれの薬についての効果などを知る事が出来た。
  - ・発達障害によく使われている薬や、薬の種類、効果を詳しく知る事が出来た。
  - ・発達障害の理解や判定方法、処方薬を複数の領域から多角的に理解する事が大切だという事がわかりました。
  - ・薬が補助手段であり、本人の特性を理解した個別支援が大切であることを学びました。
  - ・発達障害者支援法の現在までの歴史や、薬、概念などの専門的な内容も多くやや難しく感じましたが、勉強になりました。
  - ・内服薬について再確認でき、薬は補助的なものと知る事が出来ました。
  - ・発達障害者の支援、発達障害者法の理念、治療薬について等多岐にわたり基本的なことを学べてよかった。
  - ・発達障害の歴史や種類、診断方法や治療薬など全般的な内容を学ぶ事が出来た。これまで知らない事も多く、勉強になった。
  - ・医療的な支援が今まで欠けていたので、薬の内容とどんな時に使うのか知る事が出来た。
- 支援者として、医学的なことが抜けがちなため、三者(医学、教育、福祉)が協力をして支援をしていく事を改めて気づく事が出来ました。発達障害における法律の変化、薬物治療を知るという事は支援者にとって非常に大事なことだと思うため、学び続けて行きたいと思う。
- 発達障害の歴史をわかりやすく説明して下さい、新たな視点で子どもに関わる事が出来そうだと思います。中年以降の方は適切な環境の中で過ごして来られなかった方が多くいる事がわかり、その世代の方のフォローも必要と思いました。また、発達障害者支援法に関連した意見も目立ちました。発達障害者支援法が出来るまでの背景を知る事が出来て良かった。服薬の意味(症状が軽減している間に周囲が適切な対応をする事で、自己有能感を保ち、二次的問題の発生を防ぐことが出来る事)が学べてよかった。

## アンケート結果

### ② 「自閉症の人の支援」 新井 豊吉 氏

- 動画を見る事でより理解が深まりました。自発的コミュニケーションの大切さが印象に残りました。現在たまたまなのか支援によって子どもが落ち着いて過ごし、他害が減っている現状があります。アセスメントが重要である事も納得できました。他にも動画や実践例、具体的な映像が多く示されているため理解が深まったという意見があり好評でした。
- その子その子に合わせる具体的な方法を構造化の取り組みのビフォーアフターをいくつも示していただき、大変解り易かったです。支援者の庄でやらせないで構造化する事で、最初はゆっくりでも自発的にできる力が付く例など、解っているようでわかっておらず、目からうろこでした。
- 新井先生の考え方、本人やご家族へ寄り添った支援がとても素敵であったという間に研修の時間が過ぎました。画像や事例が多く、具体的に解りやすい内容で、絵カードなど実際に使用しているものを見る事が出来て、今後作成するなどに参考になります。
- 個々への支援の大切さ、人によって個別のスケジュールを組み立てる事の大切さ、しっかりとアセスメントを取って支援する事が重要であると感じました。時間の関係で見れない動画もありましたが、ぜひ機会があれば拝見したく、また新井先生の研修に参加させて頂きたいと思いました。有難うございました。
- 現場でPECSを使用した利用者様があり、職員から何でも聞くのではなく、その利用者様が自発的にコミュニケーションが取れるような環境であることが解りました。利用者様とコミュニケーションをとる際には、簡潔な文章でかつ具体的に伝える事を意識して支援したいと思いました。
- PECSについては他にもいくつかの意見があり、生活介護の支援員をしており、強度行動障害の利用者様への取り組みに活用している。PECS、構造化について、氷山モデルに基づいたアセスメント、現場での実際の支援の様子を見る事が出来てとても勉強になりました。実践でも取り入れて行きたいです。PECSの活用が進んできているのが解ります

## アンケート結果

### ③ 「構造化」 安倍 陽子 氏

- ASDの人は明確で端的に伝える事で理解しやすい事がわかった。支援側が一人ひとりにあった環境調整と提示方法を深くしていく事が必要であり、その提示方法が一般化できる方法であることが重要である事を学ぶ事が出来た。また構造化について指示の出し方や順序だて、どのように情報を整理したり強調したりするのか具体的な事例を豊富に教えて頂いたのが勉強になった。他の意見の中にも事例や画像の多さ等、具体的な事例が多く、すぐに現場で使えるとの意見があった。
- 子ども中心に療育の視点での講義でしたので、発達障害の方の見え方、考え方、動きなど根底になる特徴が理解しやすかったです。また、構造化も一人ひとりの個性で考える事なので、就労して生活を送っている大人であっても、障害による生きづらさを感じる事項に対して有用と感じました。
- ASDの人の学び方の違いを明確に知る事が出来た。支援の方法もわからない事から、意味があるように整理していく事を、具体的に学べた。写真や講師の先生の経験を具体的に話し頂き、非常に参考になった。また、スケジュールの個別化では、その子の理解にあったものなのか、活動がパターン化していないかを改めて考える機会になった。
- ASDの方の学び方は健常者とは色々異なり、一人ひとりに合わせてスモールステップで教えていく事が大切だと解りました。おしゃべりが上手な方でも、理解が難しいという事を知り、現場でもそういった特性を持つ方がいるので、スケジュールや文字を用いて視覚的に教える事を大事にしていきたいと思いました。利用者様のアセスメントがとても大切であり、一人ひとりに合わせた環境や物の配置が大事である事がわかりました。
- 構造化について、自閉症を持つ方が安心して生活をする上で大切なものであることを学びました。一人ひとりやり方が違い、じっくりとモニタリングし、支援者が個々にあったものを提供する基本姿勢を実施していきたいです。説明の一つ一つに写真など具体的な事例があり、大変勉強になりました。理解はできても現状に導入する事の難しさも書かれてありました→具体的な手法は良く理解できました。今の特別支援学級では、なかなか構造化や予算の関係で難しい所もあります。

## アンケート結果

### ④ 「ASDのコミュニケーション支援」 諏訪 利明氏

- すでに獲得している表出に合わせて表出方法を新たに獲得できることが、適切なコミュニケーションシステムであることを学ぶ事が出来た。コミュニケーションシステムの獲得が、その人の今後の生活を豊かにする一つの方法だという事を改めて学べ、今後の支援の中でどうしたらコミュニケーションシステムを広げられるか注目していきたい。コミュニケーションについて深く考える機会になりました。こちらがすべて意図をくみ取って支援するのではなく、まずは本人の伝えたい事を観察しながら待つことも大切であると学びました。
- ASDに特化した具体例がいくつもあり、ASDの理解を深める事が出来た。他者への意識が低く、見てくれないお子さんが多くいる中で、まず興味を持っていただく事を目指していきたいと感じた。また、自然な環境で練習し環境が変わっても発信できるよう支援していきたいと感じた。応答ではなく発信を意識していきたい。また、毎日一緒にいるとコミュニケーションが定型的になりがちだが丁寧なアプローチの大切さに向き直る事が出来た。
- 理論的に構成されていたので具体的な方法よりも「大切にすべきところ」が解りやすく、明日からすぐにでも導入する事が出来そうです。感覚も大事ですが、理論立てて目の前のお子さんにあったコミュニケーションを考えていきたいと思えます。
- たくさんの視点を持って観察し、本人が伝えたい事をどのような手段で伝えたらコミュニケーションが取れるようになるのか、自発的なコミュニケーションを目指して、利用者さんの見極めが出来るようになりたいです。先生の話し方や伝え方が大変解りやすく、あっという間に時間が過ぎ、もっとお聞きしたい研修でした。先生に関する意見は多く、先生のお話をずっと聞いていたい、先生のご経験を交えたお話が大好きです等の意見が多数あった。
- ASDの方が抱えるコミュニケーションの困難さをわかりやすく学ぶ事が出来ました。アセスメント、サンプリングを探る重要性を改めて考えました。これまで自分がASDの方との関りを振り返り、今日聞いたことを実践に繋げようと思いました。
- コミュニケーションが苦手な子に、困った様子が見られると「どうした？」と声をかける事が多かったことに気付きました。コミュニケーションの意味を知って、当事者が使える使いたいと思えるスキルに繋げるように、しっかりとデータを取っていく事が必要だと感じました。他にもこのような意見があり、コミュニケーションのとらえ方を再認識した方が多いようでした。

## 令和7年度 医療機関等向け講習会 実施報告

第1回東京都発達障害者支援地域協議会  
令和7年11月19日(水)

社会福祉法人 正夢の会  
理事長 山本あおひ

# 研修概要

目的：発達障害児（者）への対応に係る講習会を実施することにより、発達障害に対応可能な医療機関の確保を図り、発達障害児（者）への支援を担う人材を育成する。

対象：医療機関・保健センター等の医療従事者等

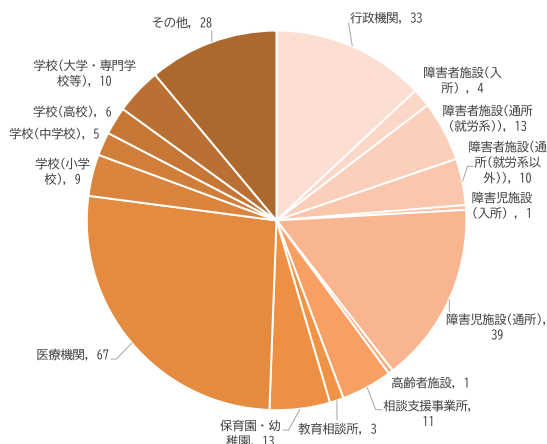
内容

	日程	応募/参加	講義内容	講師	所属
第1回	9月7日 (日)	95名中 70名 71.74%	① 発達障害と地域連携	本田 秀夫氏	信州大学 医学部 子どものこころの発達医学教室 教授
			② 発達障害と強度行動障害	會田 千重氏	独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター 統括診療部長
第2回	9月21日 (日)	93名中 65名 69.89%	① 発達障害とアイデンティティ	近藤 直司氏	大正大学 名誉教授
			② 発達障害と心理検査	稲田 尚子氏	大正大学 臨床心理学部 臨床心理学科 准教授
第3回	10月19日 (日)	66名中 42名 63.64%	① 成人発達障害と医療	柏 淳氏	ハートクリニック 横浜 院長
			② 発達障害と行政	菊地 章人	東京都福祉局 障害者医療担当部長
第4回	11月16日 (日)	-	① 発達障害と生物学的背景	宇野 洋太氏	よこはま発達クリニック 副院長
			② 発達障害と教育	市川 宏伸氏	日本発達障害ネットワーク 理事長 他
第5回	12月14日 (日)	-	① 発達障害と気分障害	榎屋 二郎氏	東京医科大学 メンタルヘルス科 主任教授
			② 発達障害と司法	安藤 久美子氏	東京科学大学 保健管理センター 准教授
第6回	1月18日 (日)	-	① 発達障害と学習障害	藤堂 栄子氏	NPO法人EDGE 会長
			② 発達障害と当事者	尾崎 ミオ氏	東京都自閉協会 副理事長 他

# 参加者の概況(所属)

申込者数：254人 参加者数：178人 参加率：70.08%  
(令和7年度実績：全6回分の第3回までの実績)

【所属別】

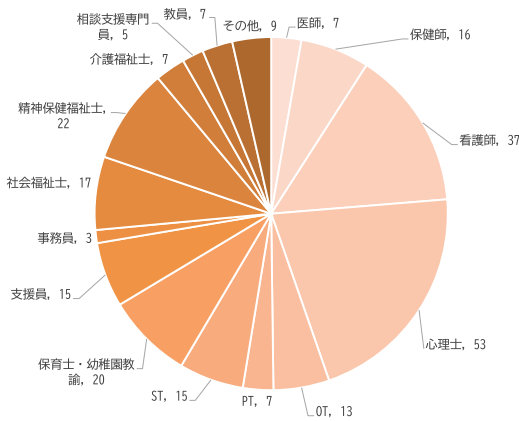


所属別	人数	割合
行政機関	33	13.04%
障害者施設(入所)	4	1.58%
障害者施設(通所(就労系))	13	5.14%
障害者施設(通所(就労系以外))	10	3.95%
障害児施設(入所)	1	0.40%
障害児施設(通所)	39	15.42%
高齢者施設	1	0.40%
相談支援事業所	11	4.35%
教育相談所	3	1.19%
保育園・幼稚園	13	5.14%
医療機関	67	26.48%
学校(小学校)	9	3.56%
学校(中学校)	5	1.98%
学校(高校)	6	2.37%
学校(大学・専門学校等)	10	3.95%
その他	28	11.07%
合計	253	100.00%

## 参加者の概況(職種)

申込者数：254人 参加者数：178人 参加率：70.08%  
 (令和7年度実績：全6回分の第3回までの実績)

### 【職種別】

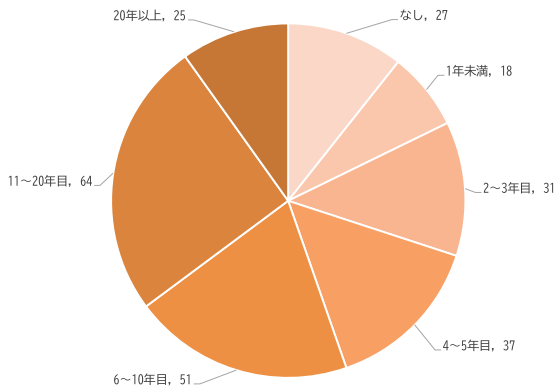


職種別	人数	割合
医師	7	2.77%
保健師	16	6.32%
看護師	37	14.62%
心理士	53	20.95%
OT	13	5.14%
PT	7	2.77%
ST	15	5.93%
保育士・幼稚園教諭	20	7.91%
支援員	15	5.93%
事務員	3	1.19%
社会福祉士	17	6.72%
精神保健福祉士	22	8.70%
介護福祉士	7	2.77%
相談支援専門員	5	1.98%
教員	7	2.77%
その他	9	3.56%
合計	253	100.00%

## 参加者の概況(経験年数)

申込者数：254人 参加者数：178人 参加率：70.08%  
 (令和7年度実績：全6回分の第3回までの実績)

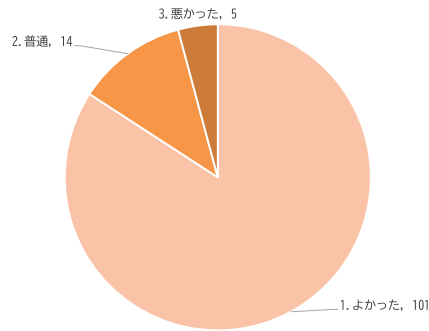
### 【経験年数別】



経験年数別	人数	割合
なし	27	10.67%
1年未満	18	7.11%
2~3年目	31	12.25%
4~5年目	37	14.62%
6~10年目	51	20.16%
11~20年目	64	25.30%
20年以上	25	9.88%
合計	253	100.00%

## 参加者の概況(オンラインについて)

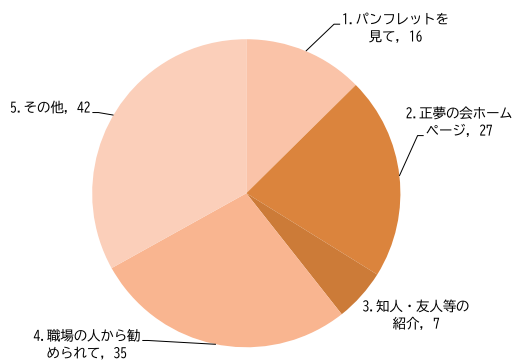
申込者数：254人 参加者数：178人 参加率：70.08%  
 (令和7年度実績：全6回分の第3回までの実績)



評価	人数	割合
よかった	101	84.17%
普通	14	11.67%
悪かった	5	4.17%
合計	120	100.00%

## 参加者の概況(研修を知ったきっかけ)

申込者数：254人 参加者数：178人 参加率：70.08%  
 (令和7年度実績：全6回分の第3回までの実績)



経路	人数	割合
パンフレットを見て	16	12.60%
正夢の会ホームページ	27	21.26%
知人・友人等の紹介	7	5.51%
職場の人から勧められて	35	27.56%
その他	42	33.07%
合計	127	100.00%

## アンケート結果

### ① 「発達障害と地域連携」 本田 秀夫氏

- 看護師として療育施設で働きながら、福祉と医療を結ぶ診断の場で勤務しています。知的障害がない発達障害向けの特別支援教室への手薄感には本当に現場でも感じています。特に親御さんの受け入れられなさが、境界域の子を通常級に入れたいという思いに拍車をかけて、子どもに無理をさせてしまい、就学後に不登校になる子が続出して心苦しく思っています。同じ地域でも、健診の有所見率のばらつきには驚きました。Q-SACCSを使って自己点検、テンプレートはとても参考になります。それを使って、周辺の社会資源との繋がりの大切さを再確認提供していきたいです。自治体が地域周辺のために道筋が示せるガイドを作っていく、標準化していく必要がある。
- 発達障害を診断された年齢が高くなるほど、診断が遅かったという親御さんが多かったのが興味深かったです。又、知的に高い子が通常学級に所属して、不登校になる割合が高いとのことで、インクルーシブの中での多様性受け入れや配慮が、法整備と現場の工夫の両方から必要なのだとわかりました。法の整備というところでは、16才の子が中学退学になると、ほぼ、児童発達支援しか行き場がないというお話も印象的でした。法の整備と医師不足も含めて、発達障害の子供達が安心して生活する環境はまだまだ整っていないと感じました。
- 研究結果も踏まえながら現状を分かりやすく把握でき、その上で、各種ツール等もご紹介していただきながら具体的な対応について考える事が出来ました。制度として整ってきていても、地域差も含めて現場としてどう対応していくか、見通しをもって早期から家庭や周囲の理解と連携強化をどう進めていくか、課題は多いがやれる事はまだあると感じられました。
- 1歳半健診の重要性を再認識しました。発達障害の診断が早くついたことへの不満が0件と言う結果も興味深かったです。晩婚化と核家族化が多い現代で、グレーな親に特性のある子と言うケースに出会う事もあり、早期診断と継続支援の必要性を感じていたため、抗議で様々なデータや地域での取り組みを知り知識を深める事が出来ました。今後に生かしたいと思います。
- 発達障害を診断された年齢が高くなるほど、診断が遅かったという親御さんが多かったのが興味深かったです。また、知的に高い子が通常学級に所属して、不登校になる割合が高いとの事で、インクルーシブの中での多様性受け入れや配慮が、法整備と現場の工夫の両方から必要なのだとわかりました。法の整備と言う所では、16才の子が中学退学になると、ほぼ児童発達支援しか行き場がないというお話も印象的でした。法の整備と医師不足も含めて、発達障害の子も達が安心して生活する環境はまだまだ整っていないと感じました。
- ライフステージにあった地域支援の必要性を感じた。また、長期的に支援が途切れないようにする事の重要性も学べた。各分野での現状と課題を浮かび上がらせて、どうすべきかが明確になった。様々な支援機関がある事や、疫学的なデータが示されており解り易かった等、多岐にわたった講義に学びが深かったとの意見が多数あった。

## アンケート結果

### ② 「発達障害と強度行動障害」 會田 千重氏

- 強度行動障害は、本人はもとより周囲がとて辛くなるため、肯定的で一貫した対応が大切だと、頭ではわかっていても、目の前で生じてしまうとなかなか難しい面があります。悪化させない対応や予防的対応をどのようにして行けばよいのか、大切な視点を学ぶ事が出来ました。本人が状態を上手く伝える事が出来ない分、援助者側が思い込みや勘違いによる間違っ介入をするとさらに悪循環になる事を気をつけ、誤学習への気づきや未学習を減らす対応、トラウマインフォームドケアの視点などにも留意したいと思います。
- 強度行動障害と言う言葉を初めて知った、強度行動障害についてほとんど知らなかったのが概論から具体的な支援について知る事が出来た。強度行動障害に関しての講義を聴くチャンスがなかなかない等の意見がいくつか見られ、また現状としては強度行動障害の実態が知られていないのが何われ、この講義の必要性を強く感じた。また、私の所属する事業所では強度行動障害は対応していないという意見もあった。
- 講義の中で応用行動分析についても詳しく触れられており、行動分析的なアプローチについて再確認できた。行動分析を丁寧に説明して頂き良かった。発達障害者の応用行動分析やTEACCHプログラムの支援についても学ぶ事が出来て良かった。強度行動障害の大変さばかりに目が向きがちだが、その背後にある本人の思い、行動の分析が重要である事を改めて認識できた等、応用行動分析について学びが深まった事や、講義後半で丁寧に説明されていたストラテジーシートについても再確認が出来た等の意見があった。また、行動分析を間近に感じる事が出来た。強度行動障害のみならず、色々なカウンセリングにも使えそうだった。強度行動障害の機能と分析のお話は、普段の臨床にも使えそうと思いましたなど、支援への講義の応用が期待できた。
- 強度行動障害について学びがあったので良い機会を得る事が出来ました。未就学児の支援をしていますが、クライシスプランシートやストラテジーシートなど、今後活用したいと思いました。肯定的で一貫した対応を心がけたいと思います。
- 看護師からの意見も頂いています。強度行動障害を起こさないための環境の大切さを学びました。日々の看護や観察の大切さと医療連携についても学びました。看護師への心理作用の5段階は自分の置かれた立場を客観的に見る事が出来ました。(強度行動障害が及ぼす看護師への心理的作用) 他院での長期の内服治療を受け、副作用に悩んでいる強度行動障害の患者さんとご家族がいます。まさに環境のミスマッチと不適切な支援による誤学習をしたようで、症状を抑えるための薬物治療が優先されていました。子ども園での看護師配置で中々肩身の狭い思いをしています。知識を増やして行くきっかけになりました。

## アンケート結果

### ③ 「発達障害とアイデンティティ」 近藤 直司氏

- ひきこもりの子に対する、軽度知的障害や境界域への気づきはとても大切な課題だと感じています。積極奇異タイプの方は、自分から積極的に他者に関わろうとしますが、その関わり方が一方的になりがちですし、そのような子に愛着の問題が絡むことでまた複雑な配慮が必要だと思えます。悪気はなくても、具体的には以下のような行動が見られるため、周囲から「空気が読めない」「しつこい」「変わっている」といった印象を持たれ、人間関係のトラブルにつながる場合があります。自分を掴むこと=アイデンティティ形成ということがすごくわかりやすかった。エリクソンのアイデンティティ、拡散症候群というのは、看護学校の時に習ったことがあったが、具体的な意味まで理解していなかったことが本講義の近藤先生の内容である程度の理解がアイデンティティ選択のゲームを楽しむ側の活力が失われている、いつになっても自己開始する選択の状態に陥っている人と親密になると飲み込まれてきた、引き込まれるか呑みこまれるかで絶望感を感じるところもとても共感できました。アイデンティティ拡散で引きこもりにならないような関わりができるようにしたい。ひきこもりケースの中には自閉スペクトラム症特性を持つ方が結構いることや心が育つ環境整備の大切さを学ぶことができ、今後の仕事につなげていきたいと思えます。
- 私は公立中学のSCをしています、近藤先生が言われていた高校以降による生徒たちの変化について思いを巡らし受講しました。中学生は他者目線が過大になり、あるいは前思春期のような発達を見られる場合もあり、個々人の多様性をいつも感じています。公立の学校現場の風土と、心理的支援を相互に見ながら、地域の医療機関などもつながり、学校支援を継続していきたいと思えます。また、エリクソン自身も悩みながらも器用なエリクソン。大好きなエリクソンのお話も嬉しかったです。ご体調がわるいなかでも教授いただき、ありがとうございます。
- 以下様々な意見がありました。
  - ・今迄に触れた事が無かった内容であり、且つわかりやすかった。
  - ・自身の園でも発達障害の園児がいるので、対応や保育士への研修等に参考になりました。
  - ・中学生の不登校支援に携わっていて、アイデンティティと言う考え方に気付かされた。支援者の関りが狭まらない事も教えて頂き大変参考になりました。
  - ・発達の特性を見る上で、その人の育った環境なども視野に入れる必要があるというのがとても腑に落ちました。
  - ・発達障害単純化ではなく、もっと広い視点でアセスメントするという観念に共感しました。また子どもの実例を挙げながらだったので、非常に具体的に明日から支援に使えるそうです。
  - ・医療従事者が発達障害に過集中状態になっていないかという警鐘を頂きました。改めて原点に立ち返り、臨床に望まなければと気を引き締めました。

## アンケート結果

### ④ 「発達障害と心理検査」 稲田 尚子氏

- 近医の小児科さんでは、健康乳児検診の時にM-CHATを行い、そのスクリーニングでふるいにかけ療育センターに来てk式を行い、療育が必要な判断を行っています。インフォーマルアセスメントの長所と短所を理解して主観的になりやすい点に注意したいと思えます。程度の判断は本当に環境によるものだと思っています。M-CHATの説明では、電話説明のフローチャートはとても解り易かったです。目的に応じたアセスメントツールの選択の大切さもわかりました。保護者面接の所も具体的な項目があり解り易かったです。次回は構造化についてもご教示頂けることを期待しています。チャットで質問を取り入れながらの研修は一方的ではないため、すごく良かったです。
- M-CHATやVineland-II、PARS-TE-RやCARSのお話から、早期の把握や適応などを考える時間になりました。検査結果も含めて、保護者や教師の情報、日常の観察と合わせて包括的に、それと、プロセスに創造を働かせる必要も大切である事を再確認しました。そもそも何の為の検査であるかを心に留め、今後も支援に生かしていきたいと思えます。
- 療育施設の保育士をしています。色々な専門職との連携が必要だと認識していますが、専門職の内容理解が追いついていません。心理職の理解が少し進んだように思えます。このように心理職ではない方からの意見には、難しかった理解が進まなかった等の意見もありましたが、福祉職のため、心理検査についてあまり知識がなかったため、大変勉強になりました。知らない検査も多くあったので、調べてみようと思いましたが、前向きな意見もありました。
- 以下、様々な意見がありました。
  - ・心理検査の種類と内容が理解できた。
  - ・自身の園児への対応に参考にさせて頂きたいと思いました。講義の中で出て来た研修の詳細を知りたいです。
  - ・ASDの心理検査内容についてもう少し詳しい話を聞きたかった。
  - ・様々な面から分析し、必要な支援を導き出す必要性を具体例で学べた。
  - ・事例から実際の検査がどのように支援に繋がっていくのかよく理解できた。
  - ・どちらかと言うと心理職向けだったので、多職種ですぐに現場で使える観点は少なかった。

## アンケート結果

### ⑤ 「成人発達障害と医療」 柏 淳氏

- 発達障害の特性から来る大人の問題や、ADHDやASDのことが分かりやすく、具体的にイメージしやすく、直ぐに役立つ内容で、大変理解しやすかったです。また、当事者の目線で理解する事の重要性と、見方の説明もあり、とても勉強になりました。
- 障害児に視点を置いた講習会が多いが、成人発達障害についての講義は具体的でありわかりやすかったです。また、成人の発達障害の特徴や治療についてのお話しとてもわかりやすかったです。
- 成年期に二次障害が出てしまうとのことが、気になりました。特性により幼少期のアタッチメントが出来にくい。では、どうしたら良いのか難しい問題だと思いました。
- まず、誰が診察しているのか〜について、「どんどん紹介されてくる」等、臨床現場でのお話が興味深かったです（不登校支援の現場にいた際も、児童精神科の予約争奪戦もございましたが、専門家不足の現状を実感）語り口等パーソナリティー含め、面白く聴かせていただきました。ありがとうございました（Twitter拝見いたします！）
- 語りがとても聞き取りやすく、また認知特性の図と解説はかなり明快でした。企業の保健師・産業医（非精神科医）・人事部が、これらを理解できていれば、適応障害として受診する方を減らすことができそうに思いました。追って先生の著書を拝読いたします。
- 発達障害のある方とかかわる時、その方がどのような世界で物事を見ているのか？という視点が大変勉強になりました。なぜ、他者視点がないのか？というのも脳の機能として理由があること。その方とかかわる際に、頭にいれてかかわっていきたいです。
- 成人発達障害に対する内容であったが、幼少からや当事者視点なども想像でき、とても参考になりました。発達障害は障がいというより個性のようなもので、一定教身近にいる生活者であり、むしろその個性をより知りたいと思いました。先生の声やテンポも聴き取りやすく有意義な講義でした。

## アンケート結果

### ⑥ 「発達障害と行政」 菊地 章人氏

- 国や発達障害に対する東京都の施策や枠組み、近況などわかりやすい説明していただき良かったです。制度の整理につながりました。やってみて効果があった事業や好事例を伺いたいです。また、法律とそこから派生する行政のシステムや体系がわかりました。
- 発達障害児、者にとっては支援法が手厚くなり子どもから大人まで切れ目のない支援が名目上あるが、支援者の数が現状に合っていないと思いました。
- 断片的に、個別に接していた制度に関する情報が、網羅されていたことが、まずありがたかったです。知らなかった施策については詳細が気になる点もありましたが（ペアレントメンターのマッチング適性の判定方法など）、福祉局の方針の全体像を把握できたことに価値がありました。
- サービスの内容を確認するためにも基本に還ることができました。

## 中間総括(1)

アンケートから見える課題点

①

参加者の状況については、相談支援研修が概ね受付数140名程度、医療従事者研修95名程度となっており、いずれも定員150名より低くなっている。当日の参加者数となるとさらに低く受付数の70%程度となっている。アンケートの内容からすると、講師の先生、講義内容いずれも評価が高く、継続を望む声もあり、内容の問題というより広報等や申し込みについての課題があると思われる。

②

相談支援研修においては、障害児通所が18%程度、成人通所16%程度、学校13%程度となっている。職種では保育士、幼稚園教諭15%程度、社会福祉士等で15%程度、医師0.8%程度、看護師が10%程度、医療機関等向け講習会においても看護師の示す割合は15%程度と最も高く、これまで課題であった「医療と福祉の連携について」のきっかけとなるのではないかと考えられる。医療機関等向け講習会においては、医師2.8%程度、心理士が高く21%程度、学校関係12%程度、OT等の専門職が14%程度、社会福祉士等18%となっている。相談支援研修、医療機関等向け講習会共に、医療従事者、福祉従事者双方からの受講があり知識の共有化が進んでいる状況が伺われ、課題への対応が進みつつある。

## 中間総括(2)

③

オンラインについては、「こくちーずプロ」のサイトにアクセスしてからのログインが解りずらかった。機械の操作に慣れていないため、オンラインでの申し込みや受講が難しかった。解らずに入室できない人もいたのではないかと、事前にログイン画面またはURLのお知らせメールがあるとより丁寧等の意見があった。しかし年々、受講者の理解も進み、研修前の事務局への問い合わせがほとんどない(あっても1,2件)。

④

オンラインでの研修については、例年通り自宅や職場で受けられる事の利便性の高さは好評であった。これだけの内容を凝縮し自宅にしながら気軽に無償で提供してもらえたことに感謝しています等の声も上がっている。一方、対面で来ると身近に開けてより伝わりやすい。オンラインだから仕方がないが、質疑応答が出来たほうが良かった。チャットを使う講師もいたが、全講師が同じ方法でチャットを活用してほしかったなどの意見もあった。また、昨年もあったが見逃し配信が一定期間設けられていると復習をする時に有難いという意見もあった。

⑤

年度の途中であったので、前半に子どもの分野が多く、後半に成人分野が入っているが、成人についての講義を聞きかかったとの意見があった。事例検討についての要望もあがっている。内容については講師の体験談や動画、視覚的な配慮が多かったことについての評価が高かったが、時間の関係上動画が見られなかった、一部動画が動かなかった、動画がフリーズしてしまったが、自分のハード面の問題かと思わずには区別が付けづらかった等、画面上の問題が挙げられた。

## 次年度に向けた改善点（1）

①

年々、申込数が減っているため原因を探る必要がある。アンケート結果を見ると、内容や質の問題は挙げられていないため、広報や運営面の課題ではないかと思われる。オンラインでの実施については、参加者の殆どが対面よりオンラインを希望しているため、上手く入れないなどの問題は、受講者の経験も必要と思われる。

② 来年度の研修に対する要望が上がっている内容

- ・感覚統合（相談研修の酒井先生に触れて頂いている、年により課題にもあげている）
- ・ABA等支援の手段（今年度井上先生が行っているが、他の支援技術も必要か）
- ・Jasper（自閉スペクトラム症の幼児から小学校低学年位までの早期介入プログラム）
- ・軽度知的障害児の性教育、高機能のお子さんへの支援、最重度の自閉症の支援
- ・発達障害とSNS、発達性ディスレキシア、医療と教育の連携事例
- ・インクルーシブ保育、発達障害者向けアプリについて、LD支援の実際
- ・集合形式でグループワーク、参加者との意見交換ができる場
- ・強度行動障害の幼児期からの支援のあり方
- ・TEACCH、発達障害の支援方法や事例検証
- ・具体的なアセスメント方法、アセスメントから手順書と導入の実践

## 次年度に向けた改善点（2）

③

まだ2か月しか開催していないので、問題が挙げられてきていない。特に今回はアンケートの中に要望や改善を希望するものがなく、次年度も引き続きやって欲しいとの意見が多かった。講義内容については、アセスメントが以前は対面だったため、実際に模擬面接をやり、実際にチェックを入れ、結果を講師と合わせながら評価していったが、オンラインになってから出来なくなり、要望はあるが実施は困難な状況である。

④

この講義を新任研修で使っている事業所もあり、基礎の部分を大切にしている。最近、新しい内容についての要望が殆ど見られず、近年は同等の講義をお願いしている。講師の方々は、毎年新しい動画や事例を入れ、工夫し毎年受講している方々からも好評を得ている。残りの講義が終了したら、次年度の内容について考慮していきたい。